

2012年1－3月期四半期別GDP速報（1次QE）
公表に際しての古川経済財政政策担当大臣談話

2012年5月17日（木）

1. 本日公表した2012年1－3月期GDP速報（1次QE）では、実質成長率が前期比年率4.1%と、比較的高い成長となった。特に、個人消費については、前期比1.1%と、震災後の反動があった昨年7－9月期を除けば2年ぶりの高い伸びとなった。また、2011年度の実質GDP成長率は、前年度比▲0.0%となった。
2. 1－3月期のプラス成長の背景には、復興需要やエコカー補助金といった政策効果が内需の押し上げに寄与したことに加え、タイの洪水の影響からの反動や米国経済の回復等により輸出が復調してきたことなどがある。また、所得環境の底堅さが消費の伸びを支えているとみられる。このように、我が国の景気は上向きの動きが続いている。
3. 4－6月期以降についても、復興需要が景気を下支えすることから、緩やかな成長が続くと見込まれる。ただし、欧州政府債務危機の再燃等のリスク要因には留意する必要がある。また、やや長い目で経済の持続的な成長を実現していくためには、復興需要から民間需要主導の経済への円滑な移行を図っていくことが重要である。
4. こうした認識の下、政府は、引き続き、平成23年度補正予算及び平成24年度予算を着実に実行するとともに、閣僚級の「デフレ脱却等経済状況検討会議」を通じて、デフレ脱却と経済活性化に向け、生産、分配、支出にわたる経済の好循環を制約している構造的問題にしっかり対処してまいりたい。

（以上）